

## 暖地で乳用牛に給与するホールクroppサイレージ用作物の栽培法と飼料価値

## 第1報 オオムギの播種期試験

柄本 康・窪田博弥・\*横山三千男(宮崎県畜産試験場酪農支場・\*現宮崎県営農指導課)

ENOMOTO, Y., H. KUBOTA and M. YOKAYAMA: Cultivation and Feeding Value on Whole Crop Silage for Dairy Cattle in the Warmer Region of Japan. 1 Seeding Time on Barley

西南暖地においてホールクroppサイレージを目的とした大麦の栽培を行ない、夏播き及び普通栽培播き用適品種の選定とその収穫期、特性、収量について検討した。

## 1. 試験方法

- 1) 試験場所：酪農支場圃場(黒色火山灰土壌)
- 2) 供試品種：西海皮32号、西海皮24号  
カワサイゴク、カワホナミ(対照)
- 3) 播種期：1981年8月31日、11月18日
- 4) 播種量：夏播き12kg、普通栽培播き8kg  
70cm条播
- 5) 施肥・管理(kg/10a)：基肥・堆きゅう肥4000 ようりん60、苦土石灰150、N-9、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-9、K<sub>2</sub>O-7.2  
追肥・夏播き9月20日、普通栽培播き12月19日、N-3.6、K<sub>2</sub>O-3.2
- 6) 試験規模：3×4m、3反復
- 7) 刈取：糊熟期
- 8) 調査項目：生育状況、出穂期、生育期間、収量、病虫害、倒伏性、その他

## 2. 試験結果及び考察

夏播きは全品種、発芽、生育とも良好であった。

西海皮24号は他品種より20日程度早く出穂期に達し、刈取りは11月18日に出来た。他品種の刈取は11月30日であった。

総実割合は西海皮24号が50%、カワホナミ40%、カワサイゴク35%、西海皮32号10%と低かった。

収量性は風乾物でカワサイゴク419kg/10a、次いでカワホナミ355kg、西海皮24号348kg、西海皮32号323kgであった。西海皮24号は総実割合も高かった事から風乾物穂重で107kg/10a、穂重割合は30.8%とカワサイゴクの44kg、10.4%、カワホナミ34kg、9.7%、西海皮32号28kg、8.8%に比較してかなり差があった。

全品種、虫害は見られなかったが病害がカワホナミに多、他品種に中程度見られ、主に赤さび病及び斑点病であった。普通栽培播きは全品種発芽、生育とも良好であった。

出穂期は夏播き同様に西海皮24号が他品種より9日程度早く達した。

刈取りは西海皮24号、カワホナミが4月24日に糊熟前期で、西海皮32号、カワサイゴクが5月7日に糊熟中期から後期で若干、熟度に差があったように思われる。

総実は全品種良好であった。

収量性は風乾物収量でカワホナミが949kg/10a、カワサイゴク932kg、西海皮24号791kg、西海皮32号785kgであった。風乾物穂重はカワサイゴク391kg/10a、西海皮32号327kg、カワホナミ207kg、西海皮24号197kgであった。風乾物穂重割合はカワサイゴクの42%からカワホナミの21.8%と20.2%の差があった。これは、刈取時の熟期の差も要因の一つと考えた。

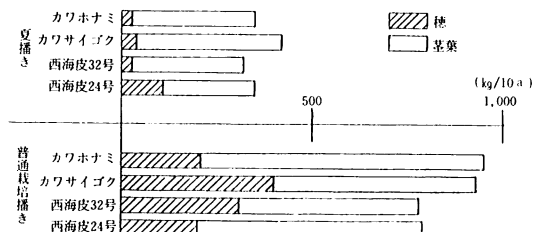
病害は西海皮24号が少、他品種は微で、主に斑点病であった。虫害は全品種、無であった。

倒伏はカワサイゴクが中程度でカワホナミ、西海皮32号が微、西海皮24号が無であった。

以上、播種期による品種の特性、収量はそれぞれ異なったがホールクropp利用を考える場合、1年目成績からみて夏播きでは西海皮24号が総実程度が高いという点で可能性があると思われる。普通栽培播きでは全品種、生育特性に大きな差はなく、収量性の点でカワホナミ、カワサイゴクが有望のようである。

第1表 生育特性

播種期	品 種	出穂期 刈取り 病虫害 倒伏			草丈 cm	根長 cm		
		月・日	月・日	無~甚			無~甚	
夏播き	カワホナミ	10-26	11-30	多	無	微	69	63
	カワサイゴク	10-25	11-30	中	無	無	71	64
	西海皮32号	10-26	11-30	中	無	無	73	60
	西海皮24号	10-7	11-18	中	無	無	67	61
普通栽培播き	カワホナミ	3-28	4-24	微	無	微	87	90
	カワサイゴク	3-27	5-7	微	無	中	83	88
	西海皮32号	3-28	5-7	微	無	微	84	86
	西海皮24号	3-19	4-24	少	無	無	88	91



第1図 風乾物収量